慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	福田徳三著 国民経済講話
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1917
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.4 (1917. 4) ,p.578(150)- 579(151)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170401-0150

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

批評と紹介

福田德三著『國民經濟講話』（乾卷）

大正六年二月東京佐藤出版部發行
四六版七百六十頁定價貳圓參拾錢

福田博士は大正五年の夏石川縣中等學校教員講習會に於て縣廳の依囑に依り經濟學の大意を講述せられたが、今回其時の速記を訂正增補して乾坤二卷に分ちて上梓せらるゝことになつた。茲に紹介するは即ち二月下旬に發刊せられた其乾卷であつて、坤卷は本月か來月中刊行に附せらるそうである。博士は新著述の內容を緒論、生產論、流通論の三部に分ち、乾卷には緒論と生產論を載せ、坤卷には流通論を收める豫定であると云ふ。即ち著者は經濟學たば在來の如く生產論、交換論、分配論並に消費論の四科に分割することを甚だ無意義なる研究方法として之を排し、交換論以下を流通論の題下に一括して取扱つて居らるゝのである。

本書の目的とする所は著者が序文に於て公言せられて居る通り「普通の教育あり常識を具へた人ならば、誰が讀んでも諒解することが出來て、而も最新の學問進步の程度に十分應じた經濟原論の書物を著はす」の一事に存するのであるが、本書の體裁は能く其目的に適つて居る樣に思はれる。本書には素人に取りては頗る難澁不可解なる術語の使用を全く避くるか、或は已むを得ず之を用ひたる場合には丁寧反復其意義を說明し、且つ全篇福田博士としては珍しらき至極平易なる談話體、且つ振假名附の文章で何人にも分かり易き樣に且つ面白く經濟學の理論を解說するのみならず、人類の經濟生活の種々の方面に亘りて博士獨特の犀利なる筆鋒と警句とを以て側面的評論を加へ、公私の經濟問題に對する常識の普及に努力せる形跡が歷然として顯はれて居る。

而かも著者の目的は決して單に簡易の經濟學教科書を江湖に提供するのでは無いらしい。序文にも「出來る丈け廣く內外學者の著書を參考して重要な學說は勉めて之を紹介し、兼て自分の研究の結果を述べるに方つては、自分に於て多少の定說に達したと信ずる所を詳しく記す樣にと心掛けました。即ち形式の上に於ては飽迄通俗であると共に、學問上多少注文を持つて居る讀者にも讀んで頂けるものとすることを期したのであります。」と斷つてあるが、本書の內容には著者の抱負が充分に實現されて居ると云はざるを得ない。坤卷が發表された後でなければ、福田博士の新しき企圖に就きて斷定的なことを彼是云ふことは勿論出來ない譯ではあるが、乾卷のみに就きて云へば、專門學校程度の教科書として著はされたる經濟原論にも餘り見當らない程の專門的研究又は新らしき思想を紹介してあるのみならず、博士獨創の研究をも載せて居る。其數例を擧ぐれば、政治と經濟との關係、流通經濟の本質、原始時代に於ける經濟組織、土地耕作法の進化等に關する新らしき解說である。福田博士は曾て中學程度の學校に用ゆるものとして經濟學の教科書を著はされたことがあつたが、此書物の內容の程度は中等校式のものであるにも拘はらず、其記述方法は專門學校の學生に對しても寧ろ程度の高すぎる憾みがないでもなかつた。然るに此回執筆せられたる「國民經濟講話」は其項目の範圍並に程度より之を觀れば、中學生よりは寧ろ大學生に適したるものではあるが、其講述の體裁より之を批評すれば、中學生たりとも之を通讀して能く經濟學の原則を會得するに困難を感じない程通俗的に出來上つて居る。而かも本書を繙きて利益を受くるは獨り一般の讀者のみならず、專門の學者と雖も幾多の方面に於て啓發せられ、則裁を受くることが尠なくないであらう。

更に之を烏瞰圖的に批評すれば本書は政治、法律、風俗等社會の有ゆる事物に對して經濟學的觀察を下したるの點に於てシュモラーの「原論」に髣髴たる所があり、流暢なる口語體にて學理を說く點に於てはタウシグの「原論」に比す可く、初學者の理解力を顧慮せるの一事に於ては英のフォーセット夫人或はキャナンの「經濟學入門」又は獨のアリス。サロモンの「國民經濟學教科書」に似て居る。尙ほ本書は最近英國に於て出版せられたチャプマン、ホブソン等の著はした簡易經濟學原論よりは遙かに肩の凝らない讀物である。此點に於てキャナンの「富」と名くる新著はチャプマン、ホブソンの著述よりも一層粹けた書き方を用いて居るが、「國民經濟講話」には及ばない樣であると思はれる。

フォセット夫人の「入門」の樣に何人にも解かり易く述べてあつて而かも其內容がシュモラーが又はタウシグの原論の如く知識階級の慾求を滿足さすことの出來る經濟原論の著はさるゝことを望んで居つた人が尠くなかつたのであるが、吾人は本書の發表に依りて其需用が十二分に充たさるにゝ至つたのを慶賀せざるを得ない。福田博士の舊著が從來經濟學の研究者間に重寶がられて居つた如く、本書は一般讀者に歡迎されて洛陽の紙價を更に一層高くせしむるであらうと信ずる。

ニコルソン原著『アダム・スミスの帝國主義觀』

關口健一郎譯述

大正六年一月東京巖松堂發行
菊版二百八十三頁定價壹圓參拾錢

英國の經濟學者ボナー氏は曾て或る一著述が有名になれば人が讀まなくなつて了ふと云ふたことがある。アダム。スミスの「富國論」は正に其一例で、其內容の或部分が種々の書物に引用せられて居るが爲めに、未だ一回も其表紙だも見た